



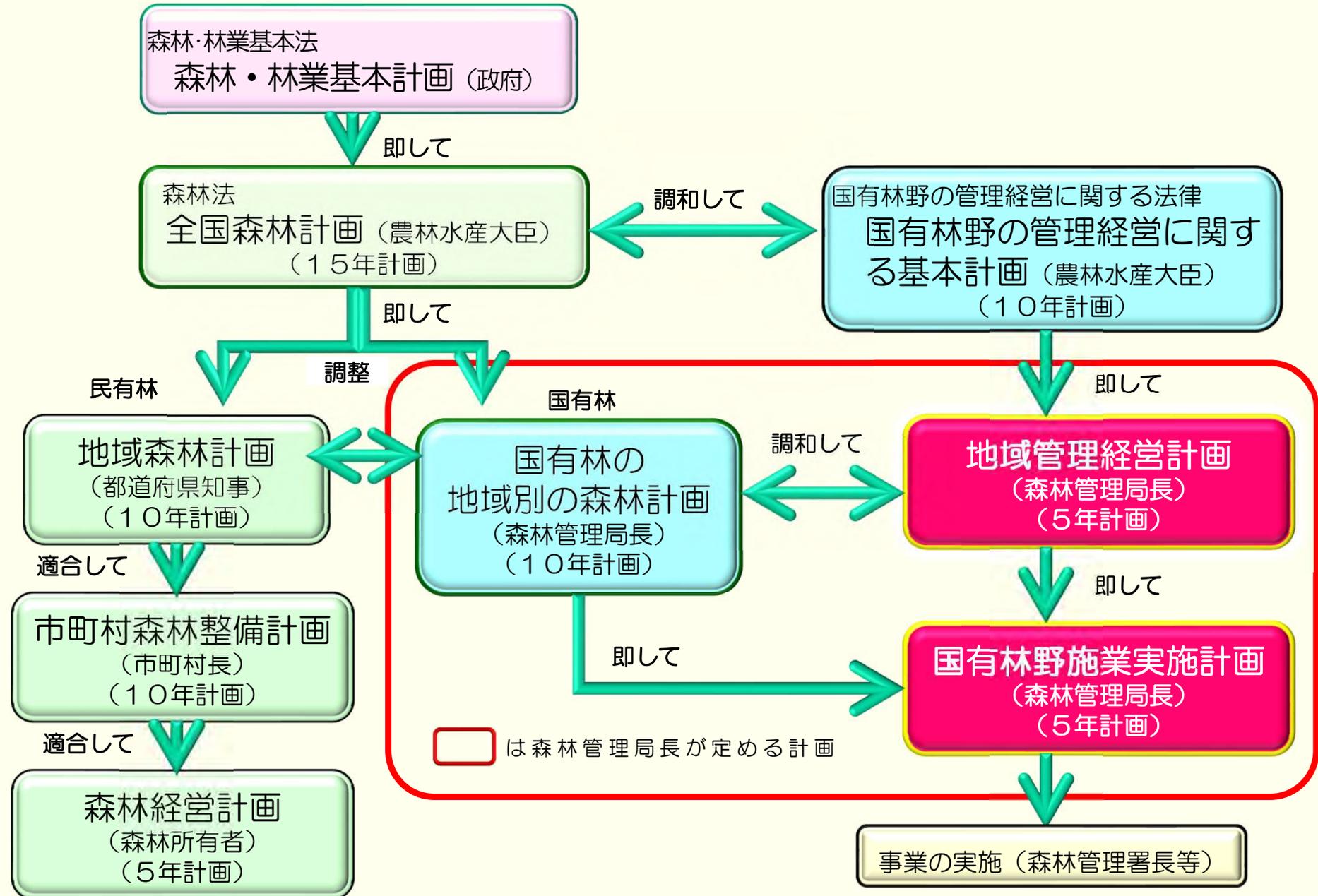
# 北伊勢森林計画区の国有林野と 次期計画の検討方向

林野庁 近畿中国森林管理局  
三重森林管理署

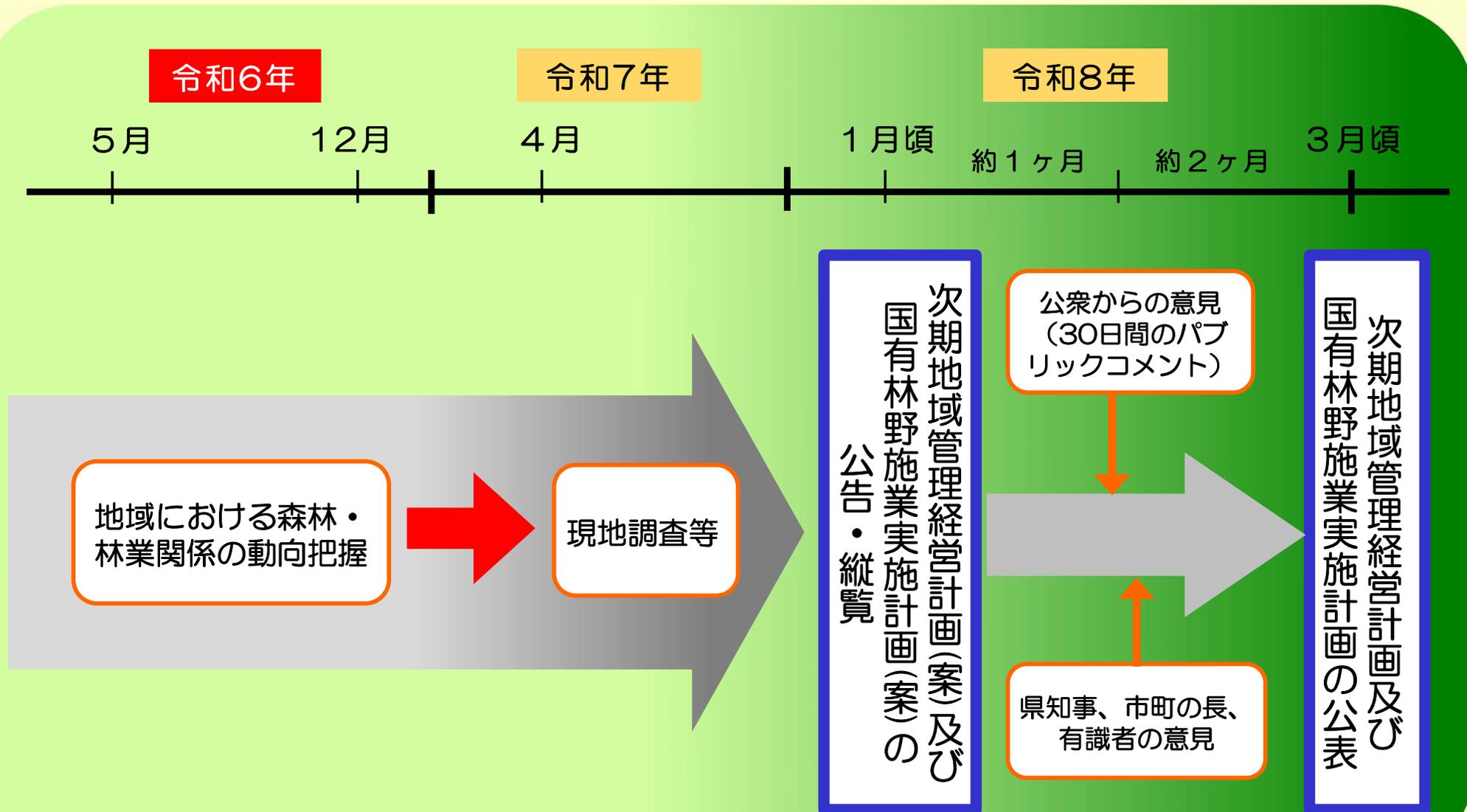
带状伐採法により造成した複層林  
【悟入谷国有林（いなべ市）】

# 国有林野の管理経営に関する計画

## 地域管理経営計画と国有林野施業実施計画



# 策定スケジュール



# 北伊勢森林計画区の国有林野と 現行計画期間の主要事業量

# 北伊勢森林計画区の国有林野

## 【北伊勢森林計画区位置図】



○森林の総面積81千haのうち  
国有林野は2.6千ha (3%)

○国有林野が所在する市町は、津市、  
四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、  
いなべ市、菰野町の6市1町

## 【国有林野の機能類型(※)】

機能類型	面積 (比率)	対象とする森林
山地災害防止 タイプ	776ha (30%)	土砂崩れや土砂の流出等による山地 災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐ ことを目的に整備する森林
自然維持 タイプ	47ha (2%)	原生的な森林生態系や貴重な動植物 が生息・生育するなど特別な保全・管理 が必要な森林
森林空間利用 タイプ	97ha (4%)	国民の皆さんが森林とふれあう場とし て、また、森林ボランティア団体等の活 動の場としての森林
快適環境形成 タイプ	—	騒音の防備や大気の浄化等生活環境 の形成を目的に整備する森林
水源涵養 タイプ	1,636ha (64%)	洪水の緩和、水質保全等を目的に整備 する森林

※ 重点的に発揮すべき機能によって、森林を5つの機能類型  
(タイプ) に区分し、適切な管理経営を行っています。

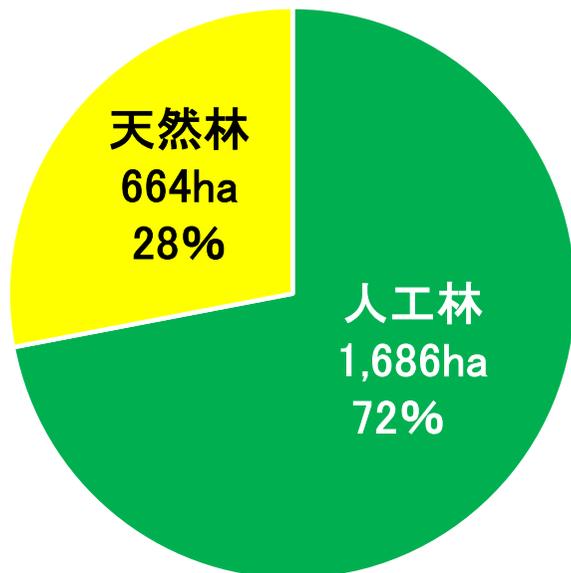
# 森林資源の状況

○面積割合は人工林が72%、天然林が28%

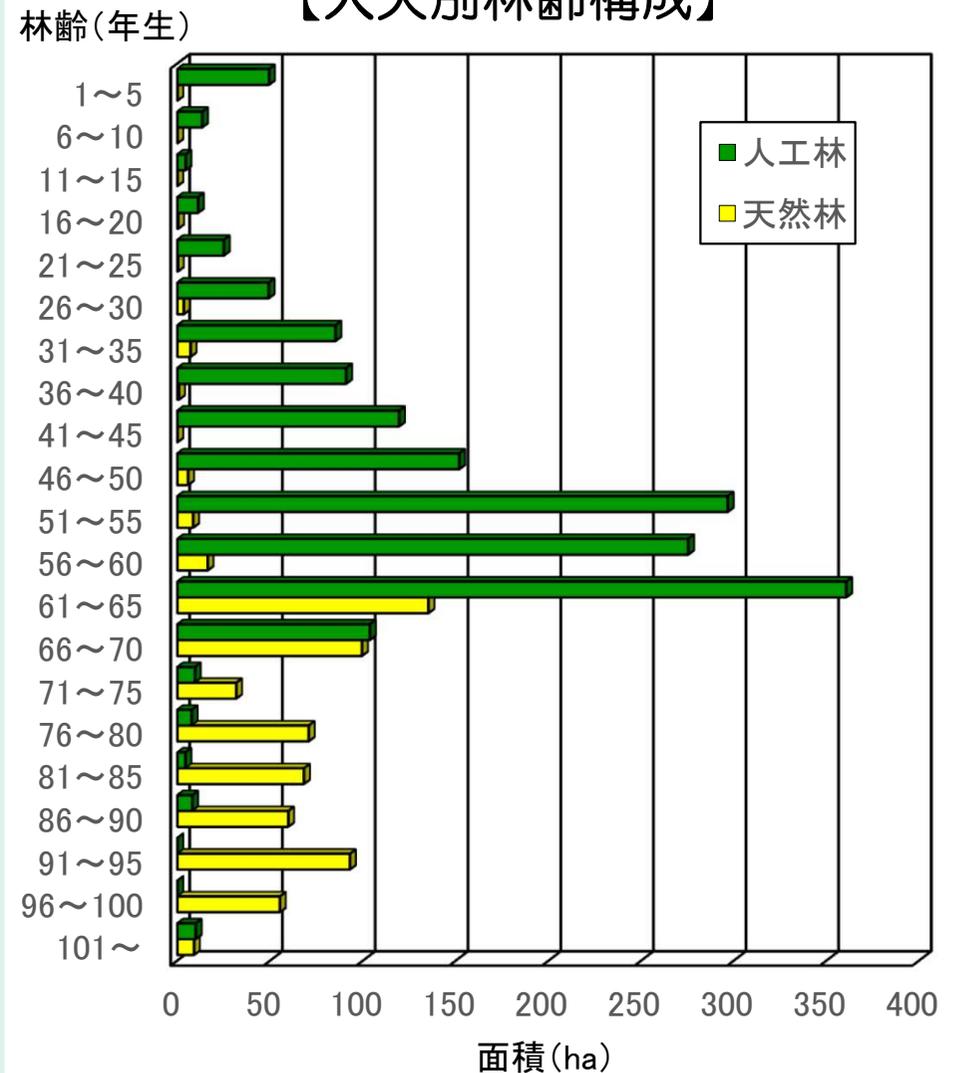
○人工林の蓄積割合は、スギ38%、ヒノキ57%

○人工林は、51年生から65年生が中心

【人工林・天然林別の面積割合】



【人天別林齢構成】



# 主要事業量

(現行計画量：R3～R7年度)

## • 伐採量

	現行計画量	
	面積(ha)	材積(m <sup>3</sup> )
主伐	105	33,125
間伐	302	35,585

(事業実績：R3～R5年度)

	事業実績	
	面積(ha)	材積(m <sup>3</sup> )
主伐	30	18,018
間伐	70	10,998

## • 更新量

現行計画量 (ha)	
人工造林	天然更新
107	1

事業実績 (ha)	
人工造林	天然更新
17	0

## • 保育量

現行計画量 (ha)		
下刈	除伐	枝打
329	22	—

事業実績 (ha)		
下刈	除伐	枝打
35	0	—

# 主要事業量

(現行計画量：R3～R7年度)

(事業実績：R3～R5年度)

## • 林道

現行計画量		
	開設 (m)	改良 (箇所)
数量	1,500	1

事業実績		
	開設 (m)	改良 (箇所)
数量	0	1

## • 治山

現行計画量	
保全施設 (箇所)	7
保安林整備 (ha)	34

事業実績	
保全施設 (箇所)	1
保安林整備 (ha)	30

# 次期計画の検討方向

# 国有林野の管理経営に関する基本方針

【国有林野の管理経営に関する基本計画  
(令和5年12月22日策定)】

- 1 公益重視の管理経営の一層の推進
- 2 森林・林業施策全体の推進への貢献
- 3 国民の森林（もり）としての管理経営

# 1 林地保全に配慮した森林施業の推進

森林は国土のおよそ7割を占め、地形は急峻で複雑かつ脆弱。また、近年全国各地で山地災害が激甚化しており、山腹崩壊、林道の損壊等広域にわたる大規模な山地災害が多発



国有林野では、従来から皆伐の伐採面積をおおむね5ha以下にするなど、公益的機能重視の管理経営を行ってきたが、今後、山地災害によるリスクを軽減するため、これまで以上にきめ細やかに林地保全に配慮した施業に取り組む。

具体的には、

- 山地災害危険地区等との位置関係を確認し、機能類型の見直しを図る（山地災害防止タイプへの変更）。
- 山地災害防止タイプのうち、急傾斜等に該当する小班をエリア指定し、林産物の搬出を原則として架線集材とする



山地災害危険地区の3区分

# 2 育成複層林施業の推進

森林・林業基本計画に掲げる森林の誘導目標に向け、近畿中国森林管理局においても、自然・社会的条件等を踏まえ、育成複層林への誘導を推進

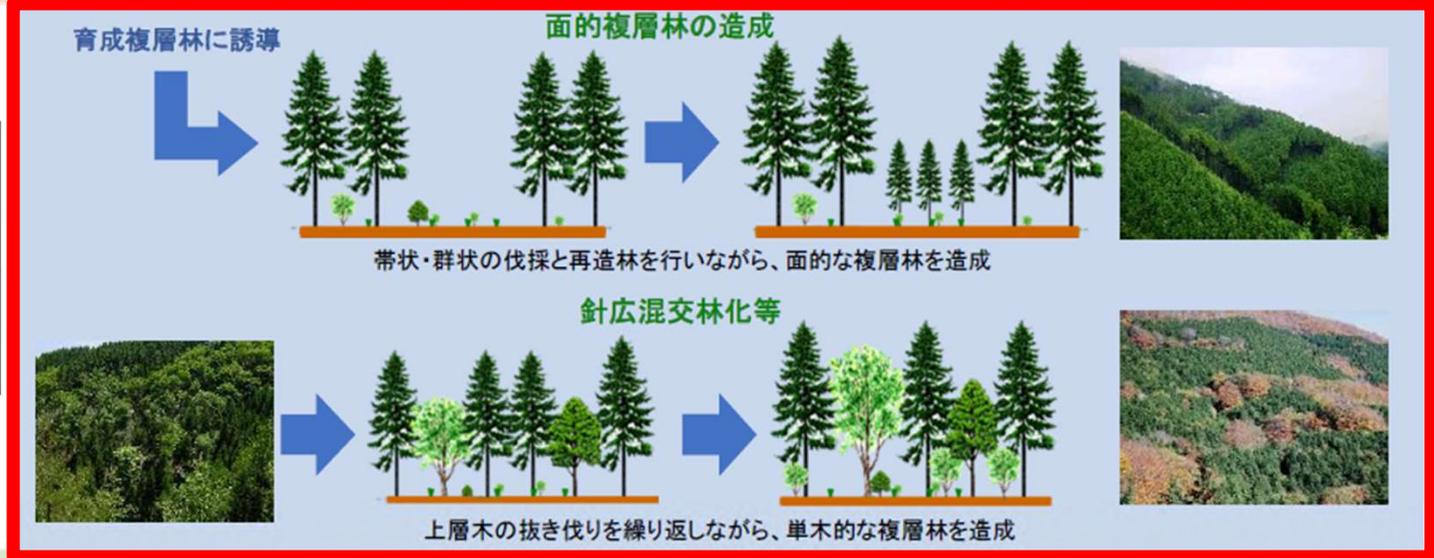


基本計画に掲げる森林の誘導目標

単位：万ha

	令和2年 (現況)	令和7年 (目標)	令和12年 (目標)
育成単層林	1,010	1,000	990
育成複層林	110	130	150
天然生林	1,380	1,370	1,360

育成複層林への誘導目標  
5年間で20万ha(4万ha/年)



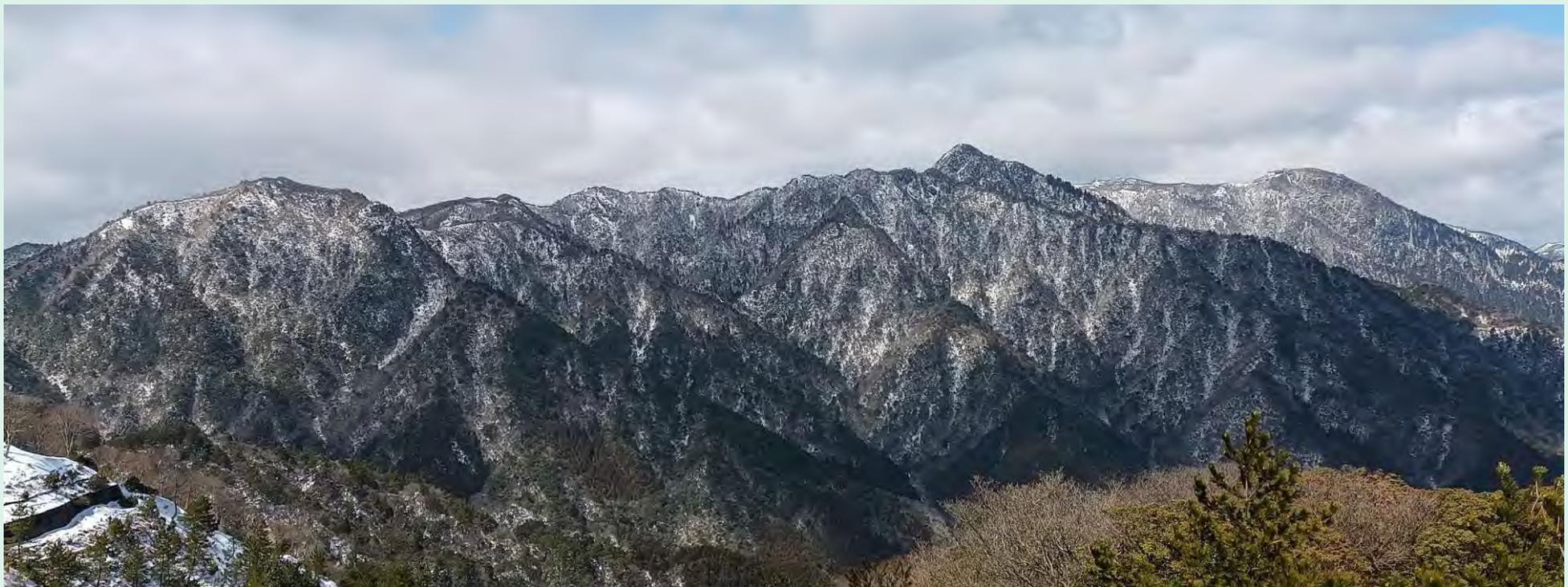
天然生林から  
育成複層林に誘導

ナラ枯れ予防や放置された里山林の整備等



### 3 自然度の高い森林の保全

保護林周辺や奥山などに分布している自然度が比較的に高い森林については、今年度実施中の保護林モニタリング調査の結果等を踏まえ、適切な保全管理の対象と位置付けて自然維持タイプへの変更等を検討



#### 【冠山国有林（四日市市）、入道ヶ嶽国有林（鈴鹿市）】

- ・ 鎌ヶ岳の南に位置しており、ともに鈴鹿山脈を形成。
- ・ 尾根部（滋賀県境）は「鈴鹿国定公園 特別保護地区」に指定されており、自然度の高い森林として、「自然維持タイプ」に区分して管理。

# 4 花粉発生源対策の加速化

府県が設定した「スギ人工林伐採重点区域」を含む市町村内の国有林を「重点区域に準じた国有林」に位置付けし、伐採・植え替えを効果的・集中的に実施。

## (参考) 林野庁の花粉発生源対策

花粉発生源となるスギの人工林について、「伐って、使って、植えて、育てる」といった森林資源の循環利用を推進し、花粉の少ない多様で健全な森林へ転換していきます。

### 伐って利用します

花粉を飛散させるスギ人工林等を伐採・利用します。

住宅に加えて、公共施設や商業施設の木造化等にスギ材を利用することにより、花粉を飛散させるスギ人工林の伐採を進めます。



伐採された木材の利用拡大



花粉発生源である立木の伐倒・搬出

### 植え替えます

花粉の少ない苗木等による植替や広葉樹の導入を進めます。

花粉の少ない苗木の生産増大に取り組み、スギの伐採跡地への植栽を促進します。また、条件不利地においては、伐採後の広葉樹の導入等を進めます。



花粉の少ない苗木等の生産体制を増進

### 出させません

スギ花粉の発生を抑える技術の実用化を図ります。

スギ花粉の飛散防止剤の開発・普及等、スギ花粉の発生を抑え飛散させない技術の実用化を図ります。



花粉飛散防止剤により枯死した雄花



## 目標

- 10年後にはスギ人工林\*を2割減少
- 将来的（約30年後）には花粉発生量の半減

※花粉の少ない苗木はスギ人工林に該当しない。

注) 大都市近郊における伐採を優先